

私の好きな碑

茂野六花句碑



新潟シティガイド
一瀬 重徳

掘の町で
ありし新潟
柳の葉
六花



茂野六花句碑

所在地 西堀七 イタ
リア軒入り口
昭和三十年代後半、新潟市街地の堀は次々と埋められて道路に姿を変えた。昭

和三十一年五月には完全に埋められ、柳の木も植え代えられてしまった。新潟大学医学部長で俳人でもあった茂野六花は、昭和四十三年次の句を詠んでいる。

夏柳のこり
西堀の名のこり
昔のように柳はのこり、西堀の名ものこり、ほっとした安堵の思いが感じられる。

新潟を愛したやさしいお人柄がしのばれる句である。

以下、ウィットとユーモアにあふれた句をご紹介します。

待つうちに
目覚めてくるやおじ草
鼻先の
つんとすましてソーダ水
芋の露
いびつにころび落ちにけり
熱燗や
うかうか酔いし下戸の僧
ここで簡単に年譜にふれてみたいと思います。

○大正十五年七月一日新潟市で兄弟六番目に生まれる。本名 録良

○昭和二十六年三月新潟

○昭和二十六年三月新潟

大学医学部「法医学教室」に入り、高野素十教授の下で法医学専攻

○昭和二十六年九月新潟医大俳句会（後の医学部俳句会）に参加、高野素十の指導を受ける。この頃高野素十より「六花」の俳号を愛く。雪の意なり。

中田みずほ主宰の俳誌「まはぎ」に投句を始める。

○昭和五十二年四月。倉

田紋文主宰「露」に投句を始める。

○昭和五十五年七月村松紅花主宰「雪」に投句を始める。

○昭和六十年十月新潟大学学長に就任。

○昭和六十年十一月二十日心筋梗塞により急逝。

五十九歳。西堀七の宗現寺に眠る。



新潟シティガイド連絡掲示板

- 1 会員交流研修（旧北国街道の名所・旧跡巡り）実施(担当者・関)
(1) 日時 9月20日(土)13時30分～17時
(2) 集合場所 佐潟駐車場
(3) 主な散策コース
三根山城址⇒旧入徳館校舎跡⇒一山寺（歴代三根山藩主の墓）⇒茶塚山⇒旧北国街道街並み⇒旧庄屋佐藤家⇒矢垂川良寛歌碑⇒樋曾山隧道（歴史的土木遺産）
※ 希望者は関までご連絡下さい。詳細は追って連絡します。
- 2 西海岸コーススキルアップ研修（担当者・間島）
9月6日13時30分から実施します。エリア以外の方でコース案内をしたい方奮ってご参加ください。
- 3 秋の街歩きイベント実施（担当者・佐藤）
(1) 10月18日(土)10時～12時
(2) 実施要領 各コース別に参加者を募集します。詳細は別途広報チラシでお知らせします。
- 4 その他
今回の全体会議は、10月18日(土)13:30から中央区西堀通6番町894-1「新潟市市民活動支援センター」で行います。

編集後記

早いもので、新潟シティガイドが発足してから四カ月がたちました。どうなるかとの心配もありましたが、会員のみなさまの熱意と努力により、順調に推移しているようです。

本誌の第二号は七月に発行することになっていましたが、原稿依頼に手間取ったり、郵送料節約等のこともあり、一ヶ月遅れの発行になってしまいました。

今回巻頭に「みなとまち新潟観光ガイド養成講座」の講師をしていただいた「横浜シティガイド協会」副会長 嶋田昌子先生から原稿をいただきました。

先般の「ポルトタウンフェスティバル」で横浜を訪れた際、お願いしたところ快諾していただきました。

これからもどうぞよろしくご協力お願いします。

(加藤文夫)



新潟シティガイド

No. 2
《編集発行》
新潟シティガイド
《発行人》
八木 洋

返しPRしまししょう。そしてサクサクと良い積極的に近所をガイドしてみませんか。古老たちも、

横濱のポルトタウンフェスティバル「開港五都市観光市民会議」に参加して

新潟シティガイド代表
八木 洋

ンティアガイド団体の人たちと楽しく交流させていただきました。翌日、横濱市の観光ボランティアガイド連合会の会長（横浜シティガイド協会副会長）で私たちの養成講座で講師をしていただいた

都市型ガイド

運営のコツ

副会長 嶋田 昌子

「新潟シティガイド」の設立をお慶び申し上げます。「みなとまち新潟観光ガイド養成講座」に伺ったのは昨年三月、迅速なスタートの背景には関係者の並々ならぬご努力があったこととでしよう。

シティガイドの命名から「都市型ガイド」の認識がうかがえました。観光客へのガイドはその時限りの出会いが実情です。とは言葉、観光地の賑わいの基礎はご当地人間です。町の人々に愛されたいような施設や名所は、いづれ廃れてしまふでしょう。

どのよう近隣の人を呼び込むかは難しいところですが、まず、ホスピタリティ

いと資質の向上を心掛けましょう。今まで以上に町の資源発掘に力をいれていくことが肝要になります。研修の講師には専門家や地元の人を招きましょう。商店街の人や住職など複数の人を招き、座談会形式にするのと口がほぐれ、思いがけないこぼれ話を聞くことができます。

会員相互の研修も面白いですね。現在NPO法人横浜シティガイド協会では九期生が研修中で、テーマは「明治二十二年の横浜市」です。港周辺エリアを「外国人居留地」と「日本人町」の二つのグループに分け、競い合いました。すでに先輩たちが調べ、実際に日々ガイドしている地域ですが、時代を限ることにより新しい発見があり、今後のガイドの内容が深まりました。行政やマスコミ、企業、地

この原稿は、「ポルトタウンフェスティバル」参加の際依頼したものです。また、写真は新潟からの三人がガイドしていただいている時の嶋田先生の様子です。



ガイド中の嶋田先生



開港五都市市長会議

去る六月二十日（金）・二十一日（土）の二日間、加藤さん・関さんとともに参加させていただきました。六月二十日は早めに集合して予定の新幹線に乗ったのですが、人が線路内に入るとラブルで約五十分遅れてしまいました。

横濱市広報「はまどり」の横濱港内視察には間に合いませんでした。

私たちは、午後から横濱開港記念館で行われた「開港五都市観光市民会議」の三分科会に、それぞれパネリストとして出席し、現状の発表をいたしました。そして、その後行われた交流

午後から「開港五都市市長会議」を傍聴しましたが、市長会議では、篠田市長の提案の「観光ボランティアガイドの育成」が宣言の一つとして発表されました。

前日の新幹線の遅れのことでもあつて、早め東京に向かい、予定通り帰着しました。

今回の開港五都市市長会議では、他都市の先進事例に触れることができ、大いに勉強になりました。今後の新潟シティガイドの運営に生かしていければ幸いです。

ありがとうございました。



鈴木 の 金 刀 毘 羅 さ ま

新 潟 下 町 に は 金 刀 毘 羅 神 社 が 三 つ あ る 。 こ ち ら は 下 町 最 北 端 の 、 附 船 町 三 丁 目 に あ る 金 刀 毘 羅 さ ま 。 民 家 に 囲 ま れ た 小 さ な お 宮 さ ま で あ る が 、 歴 史 は 古 い 。 江 戸 時 代 の 宝 暦 元 年 (一 七 五 二) 現 在 の 中 央 区 本 町 十 三 で 醬 油 醸 造 業 を 営 ん で

新 潟 下 町 鈴 木 の 金 刀 毘 羅 さ ま



新 潟 シ テ ィ ガ イ ド 渡 辺 博

わ た し の お す す め の 観 光 ス ポ ッ ト

いた 鈴 木 家 が 、 新 潟 湊 に 行 き 交 う 船 の 安 全 を 願 い 、 鈴 木 家 の 邸 内 に 造 っ た 神 社 。 ま た 、 鈴 木 家 は 江 戸 時 代 か ら 対 岸 の 山 ノ 下 辺 り へ 渡 し 船 を 出 っ て い た と の こ と で 、 常 時 船 頭 四 人 を 置 い て 管 理 し て い た よ う で す 。 年 々 、 船 乗 り や 漁 師 の 信 仰 が 厚 く な り 、 ま た 渡 し 船 の 安 全 を 祈 願 す る た め 、 明 治 七 年 (一 八 七 四) 、 よ り 渡 船 場 に 近 い 現 在 地 に 遷 座 し た と い う 。 天 領 時 代 の 安 政 二 年 に 新 潟 奉 行 に 任 命 さ れ た 四 代 目 「 根 岸 九 郎 兵 衛 」 が 揮 毫 し た と い う 「 金 刀 毘 羅 神 社 」 の 神 額 が 今 も 残 っ て お り 、



鈴 木 節 美 の 像

の 神 額 が 今 も 残 っ て お り 、 二 六 年 間 の 歴 史 を 感 じ ぬ 境 内 の 民 謡 は 大 家 で 「 越 後 追 分 」 の 発 掘 等 新 潟 民 謡 の 発 掘 に 尽 力 し 流 し て 有 名 な 「 新 潟 甚 句 」 を 現 在 歌 わ れ て い る 親 し み 易 い 節 に 直 し 、 普 及 に 努 め ら れ た 「 鈴 木 節 美 」 氏 の 胸 像 が あ る 。



私 の ガ イ ド 日 記



新 潟 シ テ ィ ガ イ ド 宮 川 英 子

西 海 岸 公 園 コー ス を 案 内 し て

私 の ガ イ ド デ ィ ビ ュ ー の 記 念 す べ き 日 (五 月 十 八 日) は 、 朝 から 雲 ひ と つ な い 晴 天 で し た 。 そ し て 大 安 吉 日 で 私 の 門 出 を 祝 っ て く れ て い る か の よ う で し た 。 「 大 丈 夫 、 き つ と う ま く い く 。 案 内 は へ た で も 、 西 海 岸 コー ス は 歩 く だ け で も 楽 し い 。 」 そ う 自 分 に 言 い 聞 か せ ま し た 。 当 日 の お 客 様 は 、 女 性 五 名 で し た 。 ま ず 、 戊 辰 の 役 墓 苑 で は 、 戦 争 の 過 酷 さ 非 情 さ が 感 じ と ら れ 、 厳 肅 な 気 持 ち に な り ま し た 。 松 林 の 散 策 路 に 入 り 気 分 は が ら り と 変 わ り 、 楽 し い 気 分 に な り ま し た 。 北 原 白 秋 の 砂 山 の 碑 で は 、 み ん な で 合 唱 し 、 私 の 気 持 ち も こ れ で 落 ち 着 き ス ム ー ス に 言 葉 が 出 る よ う に な り ま し た 。 ニ セ ア カ シ ヤ の 白 い 花 が

「 楽 し か っ た で す 。 」 「 勉 強 に な り ま し た 。 」 等 の 言 葉 を 聞 け ば 、 う れ し かつ た で す 。 そ の 日 の ビ ー ル は 格 別 お い し かつ た で す 。 こ れ か ら も 練 習 を 重 ね 、 自 分 も 一 緒 に

ス の 半 分 で す 。 時 間 も び っ た り 。 東 屋 で お 茶 と お 菓 子 (新 潟 奉 行 菓) で ほ っ と 一 息 。 日 差 し の 強 い 日 で も 木 陰 に な り 涼 し い で す 。 休 憩 所 が あ る 事 は ラ ッ キ ー で す 。 松 林 を 抜 け る と 今 度 は 町 歩 き で す 。 行 形 亭 の 前 で 白 無 垢 の 花 嫁 さ ん に 出 会 い ま し た 。 お 客 様 に 「 何 十 年 前 の こ と を 思 い 出 し ま す ね 。 」 と 話 し な が ら ゴ ー ル に つ き ま し た 。 「 楽 し か っ た で す 。 」 「 勉 強 に な り ま し た 。 」 等 の 言 葉 を 聞 け ば 、 う れ し かつ た で す 。 そ の 日 の ビ ー ル は 格 別 お い し かつ た で す 。 こ れ か ら も 練 習 を 重 ね 、 自 分 も 一 緒 に



ガ イ ド 実 践 (5 月 1 8 日 ・ 西 海 岸 エ リ ア)

甘 く た だ よ い 、 小 鳥 の さ え ず り 、 緑 の 木

楽 し め る 余 裕 を も ち た い と 思 っ て い ま す 。



会 員 紹 介

Table with 2 columns: Photo and Member Info. Member: 板鼻秀昭 (Itanashi Hideo), born in Iwate, interested in folk songs and agriculture.

会 員 紹 介

Table with 2 columns: Photo and Member Info. Member: 小寺嘉信 (Kotera Yoshinobu), born in Niigata, interested in reading and local dialects.

会 員 紹 介

Table with 2 columns: Photo and Member Info. Member: 九里浩之 (Kuri Hiroyuki), born in Niigata, interested in reading and museums.

会 員 紹 介

Table with 2 columns: Photo and Member Info. Member: 宮川英子 (Miyakawa Eiko), born in Niigata, interested in hiking and hot springs.

立 ち 寄 り



折 り 紙 の 実 演

モ デ ル コー ス に は 入 っ て い ま せ ん が 、 古 町 六 の 小 原 小 路 に は 歩 い て 、 見 て 楽 し い お 店 が 並 ん で い ま す 。 小 路 の 中 ほ ど に あ る 「 太 田 和 紙 店 」 も そ の ひ と つ で す 。 所 狭 し と 飾 ら れ て い る 折 り 紙 作 品 を 見 る の も 楽 し い で す が 、 折 り 紙 の 実 演 も 見 ら れ ま す 。 簡 単 な も の で あ れ ば 、 折 り 方 を 教 え て も ら え ま す 。 外 国 人 留 学 生 を 案 内 し ま し た が 、 大 変 好 評 で し た 。 若 い 女 性 や 外 国 人 の 案 内 に は 、 立 ち 寄 り 場 所 に さ れ て は い か が で し ゃ う か 。 (齊 藤 勝 子)